

タブレット端末導入、活用による業務効率化

課題

日誌および支援記録の入力は、ケアセンター内で決められた時間に実施していた。また、医療機関への受診対応や施設外で行う面接等の際には紙で記録を行い、施設へ戻ってからPCへ再入力する必要があり、各種チェック表の転記も含め二重記録が発生していたため、業務が非効率な状況であった。

さらに、配置人員が限られていることから、記録に十分な時間を確保することが難しく、時間が経過してから思い出しながら記録を行う場合も多かった。その結果、記録の正確性にも課題が生じていた。



タブレット
7台導入



成果①（介護）

ケアの現場での即時記録、入力が可能となったため、二重記録がなくなり、タイムリーな記録が可能となった。時間を置かず記録できるため、記録の正確性、業務効率性が増した。



成果②（全職種）

バックアップ頻度の増加により、データ保管の確実性が増した。

データの閲覧が様々な場所で可能となり、ミーティング等でも活用できるようになった。



成果③（相談員・看護師）

施設外での入力が可能となった。面談記録、医療機関での記録を行う事が可能となり、施設に戻ってからの入力作業が不要となった。入力業務の大幅削減に繋げることができた。

